地域循環共生圏を実現することで目指す地域の姿

課題

基幹産業であった農業・水産業の衰退

一次産業の担い手・季節労働者不足

有名観光地近くの通過型観光地

価値共創の核・アイデンティティーが希薄

事業の連携不足 低所得

求心力となり連携を促す組織やコーディネーターが不足

地域資源

ニシン漁の歴史

明治からのリンゴ開拓の歴史

ニッカウヰスキー余市蒸留所

ブドウ栽培に適した風土・ワイン特区

シリパ山・ニセコ積丹小樽海岸国定公園

縄文時代からの歴史 フゴッペ洞窟

町民による活動（環境・福祉・教育）

事業のタネ

- 地域の基幹産業を支える担い手支援
- SDGs教育旅行・企業研修の商品開発と実施
- 持続可能な地域づくりの基礎となる地元学の推進

関係人口の創出・定着 ― 連携事業の創出 産業振興 ― 実践的なプラットフォームの構築 ― シビックプライド ホスピタリティ醸成 ― 環境保全推進

地域のありたい姿

【経済】観光業を軸とした価値共創、関係人口増加→活気のあるまち

【社会】住民が地域に愛着を持つ・ビジターとの交流によるアイディアと寛容性の獲得

【環境】SDGsが意識され、地域の自然環境が保全されることで持続可能性が高い